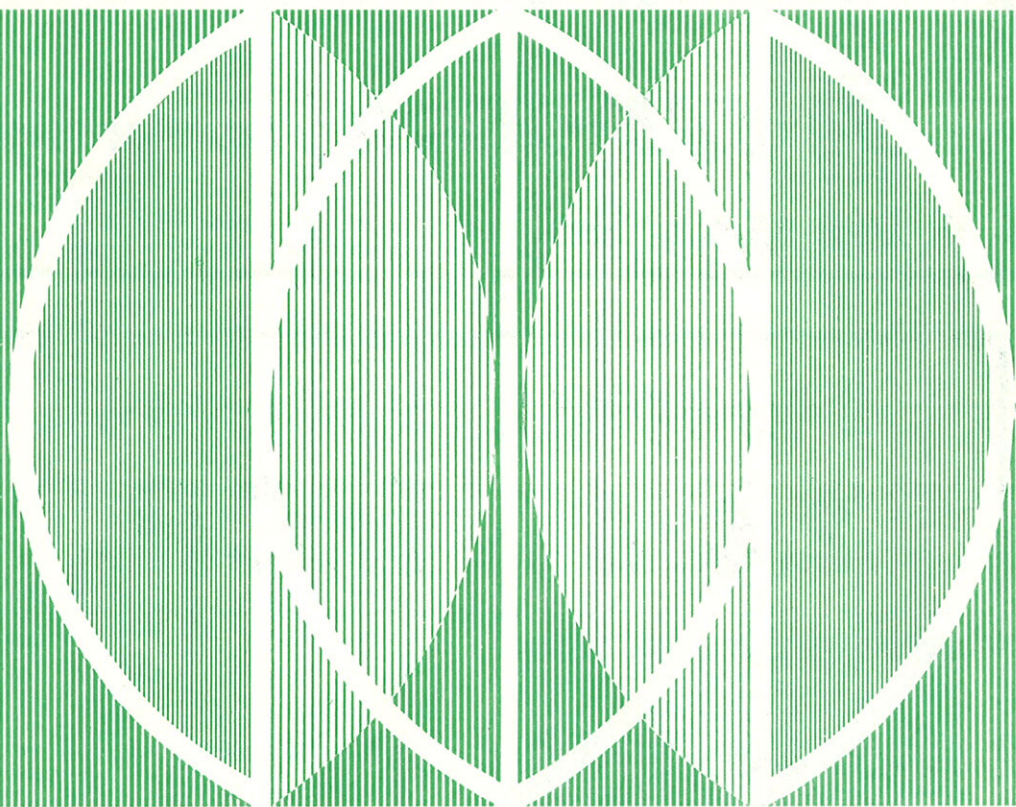


植調

第5卷第3号



財団法人 日本植物調節剤研究協会編

温州みかん園の除草に、 すぐれた効果と安全度の高い ハイバーXをお勧めします。 水の不便な所では粒剤が好適。

ハイバーXはたった1回の散布で、温州みかん園のがんこな1年生・多年生雑草をほぼ完全に枯殺。その効果は通常2～3ヶ月間も続きます。経済的です。そのうえ、みかんはもちろん、人や家畜にも害がないので安心です。

デュボン

ハイバーX粒剤

プロマシル除草剤

水の便のよい所に
デュボン

ハイバーX水和剤

*印はデュボン社の商標です。

丸和物産株式会社

◎104 東京都中央区京橋2-3(守随ビル)電話03(567)7501代

福岡出張所 ◎810福岡市舞鶴1-4-3(ハイズックビル)電話092(74)7698

除草と稲の倒伏防止が同時にできる

ニ ー ヨ ン デ イ
2,4-D® · MCP



- *安価で、使いやすい除草剤です
- *稲の茎をじょうぶにし、根張りをよくする作用を有しますから、稲の倒伏防止にもすばらしい効果です

2,4-D 協議会

日産化学工業株式会社
東京都千代田区神田錦町3の7
石原産業株式会社
大阪市西区江戸堀上通1の11

殺虫剤殺菌剤と除草剤との近接施用

DCPAが初めて日本に輸入されてから既に10年を越す。この薬がヒエを殺してイネに殆んど影響を与えないのを見て、我々は全く驚きの目を見張った。この選択性の機構をあるいは物理的な、あるいは化学的な条件にこれを求めたが、はしなくもこれをパラチオンと併用することによって、この選択性が全くなくなってしまふことが判って、その原因が生理化学的なものであることが明らかになってきた。併用する薬はパラチオンのみならず、その他多くの有機リン系殺虫剤、カーバメイト系殺虫剤と同様な結果を生じるので、この性質を逆用してワイダックのような選択性のない除草剤の開発もなされるに至った。これと同時に有機リン系殺虫剤、カーバメイト系殺虫剤とDCPAとの併用、または近接散布は稲に薬害を起こすという点で固くいましめられるようになった。概してこれらの殺虫剤を先に散布し、後からDCPAを散布した場合の方が逆の場合より薬害が大きいようである。

しかし、それならどういう条件下で、どういう剤型のものをういた場合、幾日経てば安全であるといったような、詳細な試験成績があるかという、必らずしもこれに答え得るだけの充分な材料を見出すのに困難を感じる。経験的に7~10日といっているといっても過言ではないような気がする。土壤に施用した殺虫剤は一般に散布したものより有効期間が頗る長いのが通例である。2か月間もアブラムシを防除し得る薬も少なくない。これと同時にこのような薬がDCPAとの関連において薬害を出す惧れの期間も散布の場合よりかなり長いことが想像に

目 次

キューバにおける	
雑草防除の現状と問題点	2
農林省北陸農業試験場	
作物部 中山 治彦	
昭和46年度新供試除草剤・生育調節剤一覧	
第1表 昭和46年度対象別	
供試薬剤一覧表	7
第2表 昭和46年度新供試	
薬剤成分一覧表	8
(財) 日本植物調節剤研究協会	
植調協会だより	16
新除草・調節剤	
オキシペロン	20

難くない。事実土壤施用後35日にDCPAを散布して劇しい薬害を起こした試験成績もある。

最近殺菌剤にも有機リン系のものがあり、また土壤施用の道も開けつつある。一方比較的安全にDCPAと併用し得る有機塩素系農薬がその慢性毒性の故を以て禁止の運命をたどりつつある。このような時にあたって、殺虫剤・殺菌剤施用後、安全にDCPAを使用し得るまでの期間を、土性、気象条件、剤型、施用法等それぞれの状態に合わせて明確にしておく必要があるのではないだろうか。

(日本植物調節剤研究協会会長 河田 党)

キューバにおける

雑草防除の現状と問題点

農林省北陸農業試験場作物部 中山 治彦

現在のキューバは至るところ草だらけといつてよい。耕作というものに多少でも経験のあるものなら、これは相当荒したな、と気づくにちがいない。ブルガリヤの友人に言わせると、革命政府になって10年になるが、前半の5年は諸国の援助に甘んじて、殆んど働かなかったそうであるから、雑草はこの間に思う存分はびこったように考えられる。耕地はもとより、一般家庭の庭といわず、道端といわず、とにかく草だらけである。

始めてこの国を訪れた人は、これが普通かなと思われるだろうが、丁度10年前のキューバをよく知っている自分には、よくもこんなに荒したもんだと考えさせられる。以前は、都会には、庭園専門の職業があつて、雑草防除はもとより、病害虫の防除から、鉢植えの植物の心配まで、なんでも小器用にこなしていたものであつたが、今はそういう職業者がいないので、荒れるにまかせた状態である。たまによく手入れされた庭だと思つて注意深く門札をみると、それが外国の大使館であつたりすることは珍しくない。今は深刻な野菜不足で、ソ聯の栄養学者がこのままいくと大変だと警告している状態であるが、といつて庭に家庭菜園をつくる気もおこさない国民であるから、庭の手入れがおこなわれなくても、別に不思議なことではなさそうである。

耕地の草は実のところ見事なものである。殆

んどがメヒジワの類であるが、もうどうにもならんといった状態である。現在、働らけ働らけで、土曜と日曜には国民の勤労奉仕隊が畑に出るが、これが全部草とり仕事である。なんでも1年に2週間分くらい働らく義務があるらしく、主婦も令嬢も野良着を着てトラックで運ばれ、炎天下で草取りをしているのはよく見かける。そんなところを車で通ると、いっせいに手を上げて車に挨拶してくれる。愛想がいいといえはそれまでであるが、自分にはそれがカッコウのいい疲労回復であるかのように思われた。

キューバの雑草防除の現状という題で、妙な書き出しになつてしまつたが、兎に角すごい草だといふところから始まらなければ、と考えた次男であるから、お許し願いたい。昨年はグラモキソンが広く使われていたが、もし安くてよく効く除草剤があれば、キューバは無制限に買うであろうし、またキューバ婦人から手放して喜ばれることまちがいなしである。

昨年、すなわち1970年はサトウキビの1,000万トン達成で非常に張り切つていた年であるが、実はこの年はサトウキビだけでなく、あらゆる農産物の増産を要求された年であつた。ここで詳しく書くわけにはいかないが、キューバの現在の経済危機を救うものは、共産圏以外の諸国に対する輸出の増大であり、サトウの1,000万トンはこのような意味で必要な目標であつたのである。

そのために、他の農作物は自給を目標として、耕地の拡張が計画され、例えば、水田は18万haから25万haに拡張されたのである。水田は数年前の約3倍程度の増加であるからまだよいとして、タバコの約100倍(5000ha)、コーヒーの1万ha(数年前は殆んどゼロ)、柑橘類の約200倍(10万ha)などは、まさに驚異的計画といわざるを得ない。

こんなわけで、現在のキューバはいろいろの農産物の必要量を割り出して、それから必要な総面積を求めたという次矛である。それがまだ充分な手入れをされていない耕地に対する積み重ねであるから、どここの畑も、どここの水田も、雑草防除に追われっぱなしということになる。ではどのような仕組みで防除体制がしかれており、どのような方法で雑草防除がおこなわれているかを次に記してみよう。

まずオーに、技術者不足をあげねばならない。革命後大学を封鎖した関係もあって、革命後に大学を出たものはソ聯留学の約500名で、これが計7年間かかったというから、昨年は卒業後2年目というわけである。全体で500名だから農業関係は数十名で、この中で雑草関係は2~3名にすぎない。まだ助手のまた助手程度の存在である。ソ聯に留学しなかった者は5年で大学を終えたが、大学開放、学生急募とあって、小学校からいきなり大学に入学した人も少なくない。農学畑には特にこのようなケースが多いときいている。これらの矛1回の国産卒業生は、現在各機関で責任者として取りあつかわれている。大学農学部は学部長、教授、研究所の所長、次長などの要職についている。その次の段階の卒業生は大体正規の学業を経た人々で、これらの人々は大学卒業後1~2年で、多くは研究室長、教授、助教授についている。比較的

新しい雑草学、防除学の分野はこのような若い人々によって支えられている。

要するに、技術者不足で、これを補うために、10年計画が立案されている。今後10年、すなわち1980年に、あらゆる分野に必要な技術者またはその卵が満たされるという計画である。このために現在の大学生は非常に優遇されて、全寮生活で(寮にはむかしの高層高級アパートがあてがわれている)、すべてが無料、学生はただ勉強さえしておれば、という仕組みである。勿論教科書、参考書は無料支給で、面白いことは日本なみに考えると、各国の優良本を全部自国語のスペイン語に海賊版化していることで、雑草関係ではカリフォルニア大学のロビンス教授らの執筆による“雑草防除”、デバッハ教授による“害虫と雑草の生物的防除”などがある。欧州の共産圏諸国とちがうところは、アメリカ合衆国の本がかなり訳されているということである。私はハバナ大学で講義をしたという理由で、農学関係のスペイン語図書を40冊近くも貰ったが、これが“よし気に入った、お前の欲しいものをなんでもあげよう。”といって軽く胸をたたくだけですむのだから、本当に有難いと思った。ラテン気質のよい面である。

雑草防除の研究機関といえば、農業省に植物防疫局があつて、ここ直属の研究所と、各作物別の試験場があり、研究所は西が原の農研のように、細菌研究室、糸状菌研究室、バイラス研究室などにわかれ、その1つに雑草防除研究室がある。試験場の方は稲作防除試験場のように専門別にわかれ、雑草防除は主任以下3名ぐらいでこれにあたっている。主な仕事は任意に輸入された除草剤のテストで、方法は大体日本と似ている。けれどもすべてが統計処理できるように試験区を配置するまではよくおこなわれて

いるが、あとの管理が悪いので、どうもよい成績が出ないようであった。そこで主任は面倒なことをさけて、写真判定ですまそうとさえしていた。ただこの試験をみていて、1つだけ考えさせられたことは、多分バイエル社の影響だと思いが、試験区を一定濃度、一定速度で均一に散布した後、残液または増量液を正確に定量していることで、日本のように、残ったからといってまたそれをかけ直すようなことはしない。その結果と実際の薬効との関係を別の観点から調査するという方法をとっている。

試験場関係には外国人技術者は殆んどいないが、研究所関係には研究室単位で外国人技術者が直接指導している。雑草関係はラスピヤスの中央大学にはドイツ人が、農業省の研究所にはブルガリヤ人が、それぞれ指導にあたっていた。明治の始めに我が国の大学に客員教授が沢山いたのと似ている。感心することは3か月か半年で、全く知らなかったスペイン語を憶え、スラベラベラと会話していることで、これは私の知っている東洋人（ハバナ大学の某教授に言わせると、東洋人はお話が下手だそうである）にはみられないことである。このほか、スイス、イタリー、ドイツなどからメーカーの人が試験・研究機関に出入りしている。これらの人々は教えるというよりも、自社の製品の売り込みと、売り込んだ後の薬効の調査で、自分達の車で自由にとび廻っているのは、見ているだけでも楽しそうである。私の任期中に、日本からも保土谷化学の谷山さん、川合さん、クミアイ化学の吉田さん、岩倉さんがそれぞれ半年ばかりおみえになった。（谷山さんは約2か月間）日本の場合は、試験場関係に出入りしていたが、どこへ行くにもキューバ人が付きそいになっていた。キューバ人の都合がつかない時はそれこそおあ

づけになっていたが、これも資本主義国家から来たせいかな、などと思ひすごすことがしばしばあった。

私は水稻栽培という立場にあったので、水田の雑草防除を詳しく書くが、一般栽培で使われている除草剤は今のところ“スルコブル”という除草剤だけである。妙な名前と思われるかも知れないが、なんのことはないスタム剤である。これを航空散布する。多くの国でみられることなので、このこと自身は珍らしくもないが、それが非常によく効くというところに面白味がある。効きすぎて薬害という場合も少なくないが、その殆んどは攪拌不充分ぐらいの原因であるから、大したことはない。時には条件次第で、例えば高温多湿で徒長したイネに大きな薬害が出るが、すべてが国营農場、働らく人は国家公務員とくるから、損害賠償なんていう面倒なことではない。

水稻は乾期は施肥播種機による乾田直播、雨期は航空散播される。乾期は雨待ちのため、播種後1か月にようやく発芽する例も少なくないが、雨期の場合は播種後の落水がたまり水になって、これが高温になり、発芽障害をおこす場合が少なくない。私はFAOの最終報告書に、もしこのたまり水を排除できるよう浅い溝が機械的にできるならば、収量はこれだけで10%増収する可能性があると書いた。雑草防除に関係ない話になったが、前述のスタム剤はそれこそ適期に散布される。ここで注意しなければならないことは、キューバでノビエと称しているのは実はおなじ属のコロナムで、この種が圧倒的に多いということである。種がちがっても問題は薬効になるが、私の観察ではこれがノビエより薬に弱い。もうひとつは、スタム剤散布後に湛水するが、これが熱湯さながらの温度で、

雑草の薬効を増大し、また再生を強力に阻止する役目を果している。しかも、3日ぐらいでイネの新葉が展開するので、軽い薬害ならたちまち回復するという次才である。

では何が問題か。まず才1は、スタム剤で効かない雑草対策である。キューバの水田では、次のような主要雑草がある。

Echinochloa colonum
Echinochloa crus-galli
Panicum tasciculatum
Aristida setacea
Eleusine indica
Cyperus rotundus
Cyperus brevifolius
Croton lobatus
Genaro lobatus
Commelina elegans
Abutilon indicum

日本の図鑑にない雑草もあるが、私のもっているアメリカ合衆国南部の主要雑草図説にもっていないものもある。キューバでも雑草図鑑をつくる計画がラスピヤス大学の理学部ですすめられているが、(3年かかるとか)科学省の熱帯農業研究所のアクニヤ博士は、手取り早くアンケート方式で草の種類、分布などをまとめ上げていた。

話題はそれだが、熊笹みたいなカヤツリ草は、年々増加するので非常に厄介視された雑草であった。適当な除草剤の出現が期待される。けれどもそう考えるのは非常に日本的で、実は輪作、あるいは代かき作業で(播種期は7月中旬から11月上旬をのぞけば何時でもまける)、雑草を退治してから播種すればよい方法がある。特

に、スタム剤(デーシーピーエーでも同じことにはなるが)以外に考えなければならぬ除草剤はないように思う。この考えには水稻の収量性も関係している。日本流に言えば *ha* 当たり約2トンの収量である。雑草が繁茂し過ぎて、というよりもまだ稲自身の収量構成要素に問題があってという方が減収要因になっているからである。

水田の雑草防除の才2の問題は畦畔の面積である。畦畔は乾期に改めてつくられるが、これが機械でおこなわれるので、バカデカイという欠点をもつ。田面の傾斜が充分でないと、稲の面積より畦畔とその囲りの面積(稲がない面積)の方が遙かに大きいという例すらある。この畦の上の雑草が馬鹿にならない。

水田の話が少し長くなりすぎたが、次はコーヒー畑といこう。コーヒー畑が重要かどうかというよりも、キューバ式のものの考え方を紹介したいからである。前述のように、キューバのコーヒー畑の増大計画は立派なものであるが、この原因は何か。それは、フランスに対する対策からきている。フランスは、キューバに対してサトウはいらぬが葉巻タバコやコーヒーなら買ってもよいといったところ、その翌年からタバコやコーヒーの増産計画が始まり、コーヒーには不向きなキューバであることを充分承知の上で、コーヒーの研究から始めたというわけである。ある人はインドネシアにとんで苗木を導入するやら、ある人は日本にきてアメリカ合衆国で出版されたコーヒーの本、文献を全部購入するやらで、熱気はらんだ仕事が始まったそうである。そして、とにかく苗木の量産ができて、あたり構わずジャンジャン植えた。そこまではよかったが、失張り日照り続きに弱い。バタバタ枯れるのが出てきた。これは本題の雑草防除

に関係ないとしても、コーヒー畑にグラモキソンを散布して、折角のコーヒーの樹を台無しにした例が少なくなかった。私は要請に応じてドイツ人技師と生物研究所の副所長と原因調査にいったことがあるが、日本の基準量の倍量がまかれていたことがわかった。この時のドイツ人はなんでも彼と同じ意見とっては私のそばばかりきいていた。特別な強い体臭の持ち主で、私がそれから逃げると、またそばにくるので閉口したことがあった。要するに、日本のように委託試験制度がないので、簡単なテスト、あるいは要領のよい使用説明書を全部信用して、大面積に使用されているありさまである。

柑橘類の場合は目下適当な除草剤を物色中とあったところである。グラモキソンが主体で、このための大型散布機まで考察していた。どういう訳か雑草が大きくなってから散布されている。病虫害防除でも、まだ発生予察という考えがないので、防除は後手々々になっているのによく似ている。グラモキソンは、年間少なくとも4回はかけている。これが10年前だと、農奴が片手に刀、片手に棒で、草刈りしていたものであるが、今は人手不足、雑草多発で、機械化、除草剤利用にたより過ぎていようでもある。1968年の年間の除草剤の総量(柑橘だけではない)は1,648トンで、2年後の1970年は約10倍の15,612トンに達しているのをみても、キューバにおける除草の急務がうかがわれる。その結果が前述のように、

草だらけの国になっているのであるから、甚だ難しい問題をかかえているというわけである。

キューバが予定の計画が充分達せられないことを自ら認めた昨年の7月頃から、妙にドル防衛政策をうち出した。これは、国民の食生活、衣料問題にさらに深刻な影響を与えたが、同時に除草剤の購入価格の値下げ運動にも波紋をなげかけることに相成った次才である。涙ぐましいといえ大げさになるが、若い国、発展しようと努力している国にとって、すべてが不足している状態は本当に同情に値するものがある。恐らくどの国も、大量輸出以外は値引きには応じられないであろうし、また輸入するキューバも除草剤の使用量はさげられないであろうから、取り引きの幅は狭いものになるう。

ここでは除草剤の全般、もしくは作物別の除草法は記載しなかったが、一応有名な図書を持参している彼等にとっては、日本で見聞する除草剤は適当にそなえて、適当に使用していると考えていただきたい。因みに、植物防疫局で印刷された各作物の防除基準には、アメトリン以下41種類の有名な除草剤が登載されている。最後に本誌の編集委員から与えられたキューバ(これを1つの国と書き直す)の雑草防除の現状と問題を論ずるには余りにも不充分であったことをお詫び申し上げると共に、ここに記した事柄から今日のキューバの実情をお察し下さることをお願い申し上げる次才である。

—新刊図書紹介—

みかん—薬剤摘果のすべて—山本正幸著定価1,000円

みかんの薬剤摘果について、摘果剤の性質とみかんの生理と結びつけながら、その理論や、薬剤摘果の上手なやり方などを図と写真を豊富に使い、薬剤摘果のすべてを記した実用書で、技術指導者はもちろん農家の人達にもわかりやすく解説した良書である。

—発行所 全国農村教育協会 東京都港区芝愛宕町1-3才9森ビル—

昭和46年度新供試除草剤・

生育調節剤一覧

財団法人 日本植物調節剤研究協会

当協会では、昭和46年度夏作関係除草剤・生育調節剤委託試験に供試する各社の委託申請をさきに締切り、これら試験実施場所を決定した。本年度の供試薬剤数を対象別にみると、第1表の通りである。次に、本年度供試された薬剤のうち、新規委託のものについて、その有効成分および委託者を示すと、第2表の通りである。

<第1表> 昭和46年度対象別供試薬剤一覧表

昭和45年5月15日現在

対 象	供 試 薬剤数	対 象	供 試 薬剤数	対 象	供 試 薬剤数
水稻除草剤	116	そさい・花 き除草剤	4	果樹生育 調節剤	7
移植本田	36	キュウリ	5	ブドウ	2
稚苗移植	11	イチゴ	5	カキ	2
苗代	11	スイカ	6	ナシ	2
湛水直播	12	カンラン	10	茶園除草剤	3
乾田直播	4	レタス	1	生育調節剤	1
畦畔雑草	12	ハクサイ	2	桑園除草剤	5
休耕地	17	ホウレンソウ	6	生育調節剤	1
水稻生育調節剤	5	ネギ	4	牧野草地除草剤	11
畑作除草剤	5	タマネギ	2	芝生除草剤	7
一般	13	ゴボウ	6	生育調節剤	2
陸稲	3	ダイコン	1	林地除草剤	4
とうもろこし	11	ニンジン	1	農薬残留量分析	41
甘藷	6	パセリ	3	水稲	48
馬鈴薯	12	マルチ	2	畑作	63
てんさい	7	そさい	2	果樹	3
落花生	12	キュウリ	9	茶	2
豆類	9	トマト	13	牧草	42
大豆	6	花木	6	農薬土壌残留量分析	60
小豆	9	ミカン	1	展示圃	13
菜豆	2	リンゴ	4	畑作	8
さとうきび	2	ブドウ	2	そ菜	1
ホップ	8	モモ	2	桑	5
マルチ	3	ナシ	1	果樹	3
畑作生育調節剤	8	カキ	1	その他	
そさい・花き除草剤	8	ウメ	10	計	714
一般	1	ミカン	7		
トマト	1	リンゴ			
ナス	2				
ピーマン					

＜第2表＞ 昭和46年新供試薬剤成分一覧表

区 分	薬 剤 名	剤型	成 分 名 お よ び 含 有 率	対 象	委 託 会 社 名
①水 稲 除草剤	X-52化成肥料		2,4-ジクロロフェニル-3'-メトキシ-4'-ニ トロフェニルエーテル 0.7 % N+P+K 1.2 % + 1.8 % + 1.6 %	移 植 本 田	X-52協議会 (石原産業)
	G-315・B	粒	G-315: 5-ターシャリブチル-3-(2,4 -ジクロル-5-イソプロピルオキシフェニル) -1,3,4-オキサジアゾール-2-オン 1.5 % ブタクロール: 2-クロル-2', 6'-ジエチル- N-(プロキシメチル)アセトアニリド 3 %	移 殖 本 田 稚 苗 移 植	日 産 化 学 工 業
	KH-158	粒	NIP: 2,4-ジクロロフェニル-4'-ニトロフェニル 5.1 % ACN: 2-アミノ-3-クロル-1,4-ナフト キノン 7.2 %	移 植 本 田 稚 苗 移 植	兼 商
	SST-1	粒	NIP: 2,4-ジクロロフェニル-4'-ニトロフ ェニルエーテル 1.4 % SK-23〔新規化合物〕	移 植 本 田 稚 苗 移 植 湛 水 直 播	三 洋 貿 易 東 京 有 機 化 学 昭 和 電 工
	SST-2	粒	NIP〔前 掲〕 1.4 % SK-23〔新規化合物〕	移 植 本 田	同 上
	X-52・B	粒	X-52〔前 掲〕 5 % ブタクロール〔前 掲〕 3 %	移 植 本 田	X-52協議会
	モリネートA	粒	モリネート: S-エチル-ヘキサヒドロー1H- アゼピン-1-カボチエート 8 % 既知化合物 6 %	移 植 本 田	オルドラム研究会 〔スタウファー・ 八州・トーマン 三笠〕
	TH-62・M	粒	ペノキサゾール: 2-(2-クロロベンジル) -5-プロピル-1,3,4-オキサジアゾール 5 % CNP: 2,4,6-トリクロル-4'-ニトロジフ ェニルエーテル 9 %	移 植 本 田 稚 苗 移 植	武 田 薬 品 工 業
	CNP・MPP	粒	MPP: ジメチル-4-(メチルチオ)-3-メチ ルフェニルチオホスフェート 5 % CIP〔前 掲〕 9 %	移 植 本 田	八 州 化 学 工 業
	TOC-604	粒	NIP〔前 掲〕 7 % 殺虫成分 4 %	移 植 本 田	東 京 有 機 化 学
	S-59-D	粒	S-59: 2,6-ジ第3ブチル-4-メチルフェ ニル-N-メチルカーバメイト 1.5 % S-92: 2,4-ジクロル-4'-シアノジフェニル エーテル 1.0 %	移 植 本 田	住 友 化 学 工 業
	S-71	乳	有機燐系化合物 2.5 %	移 植 本 田	同 上
	S-80	乳	2,4,6-トリクロル-4'-シアノジフェニルエ ーテル 2.5 %	移 植 本 田	同 上
	S-65・K	粒	S-45865: 2,4-ジクロロフェノキシアク リル酸シクロヘキシルエステル 7 % 06-K: 3-クロル-2-アミノ-1,4-ナフト キノン 7 %	移 植 本 田	住 友 化 学 工 業 兼 商

区 分	薬 剤 名	剤型	成 分 名 お よ び 含 有 率	対 象	委 託 会 社 名
①水 稲 除草剤 (つづき)	K W - 1 0	粒	N I P [前 掲] 7 % H Z - 1 4 : ウラン系化合物 6 %	移 植 本 田	大 日 本 除 虫 菌
	S K - 2 3	水和	新規化合物 1 0 %	移 植 本 田	昭 和 電 工
	S K - 6 3	水和	新規化合物 1 0 %	移 植 本 田	同 上
	H W - 7 2	乳	ジフ ェニルエーテル系 2 5 %	移 植 本 田	保 土 谷 化 学
	H W - 7 2	粒	ジフ ェニルエーテル系 5 %	移 植 本 田	同 上
	H W - 8 2	粒	H W - 7 2 [前 掲] 5 % X (新規化合物) 6 %	移 植 本 田	同 上
	H W - 6 2	粒	P C P - N a 2 0 % X (新規化合物) 7 %	移 植 本 田	同 上
	Dowco - 273	粒	新規化合物	移 植 本 田	ダウ・ケミカル
	Dowco - 221 ・ K	粒	Dowco - 2 2 1 : α - (2,2,2-トリクロロエ チル) スチレン Dowco - 2 7 3 [前 掲]	移 植 本 田	同 上
	M K - 5 7 9	水和	新規化合物 5 0 %	移 植 本 田	三 菱 化 成 工 業
	N C - 2 3	水和	Siduron 5 0 %	移 植 本 田	日 本 カ ー バ イ ド
	N C - 2 4	乳	新規化合物	移 植 本 田	同 上
	N C - 2 5	粒	N C - 2 4 2 % α (既知化合物) 2 %	移 植 本 田	同 上
	N C - 2 6	粒	N C - 2 4 2 % β (既知化合物) 5 %	移 植 本 田	同 上
	N C - 2 7	粒	N I P と の 3 種 混 合 9.7 %	移 植 本 田	同 上
	N C - 2 8	粒	N I P と の 3 種 混 合 9.7 %	移 植 本 田	同 上
	NH-6967・ S・MCPB	粒	NH-6967 : フェノビレート 4 % シメトリン : 2-メチルチオ-4,6-ビス-エチ ルアミノ-S-トリアジン 2.5 % MCPB : 2-メチル-4-クロルフェノキシ酸 エチル 0.7 %	移 植 本 田	日 本 農 薬
	NH-6967・ モリネート・ MCPB	粒	フェノビレート 4 % モリネート [前 掲] 5 % MCPB : [前 掲] 0.7 %	移 植 本 田	同 上
	MCC・ MCPB	粒	MCC : メチル-N- (3,4-ジクロロフェニル) カーバメイト 2 0 % MCPB [前 掲] 0.9 %	移 植 本 田	スエップ普及会 〔 日 産 化 学 ・ 日 本 農 薬 ・ 北 興 化 学 〕
	X-52・S	粒	X-52 : 2,4-ジクロルフェニル-3'-メトキ シ-4'-ニトロフェニルエーテル 7 % シメトリン [前 掲] 1.5 %	移 植 本 田 稚 苗 移 植	X - 5 2 協 議 会 (石 原 産 業)

区 分	薬 剤 名	剤型	成 分 名 お よ び 含 有 率	対 象	委 託 会 社 名
①水 稲 除草剤 (つづき)	X-52・T		X-52〔前 掲〕 5% トリフルラリン: α, α, α -トリフルオール-2,6ジ ニトロ-N, N-ジプロピル-パラトルイジン 25%	移 植 本 田	X-52協議会 (石原産業)
	モリネート・ S20	粒	モリネート〔前 掲〕 6% シメトリン〔前 掲〕 2%	移 植 本 田	オールドラム 研 究 会 〔スタウハー・ トーマン・三 笠・八州化学〕
	モリネート・ S・M	粒	モリネート〔前 掲〕 8% シメトリン〔前 掲〕 1.5% MCPB〔前 掲〕 0.8%	移 植 本 田	同 上
	モリネート・S・ ダイアジノン	粒	モリネート〔前 掲〕 6% シメトリン〔前 掲〕 1.5% ダイアジノン 5%	移 植 本 田	同 上
	J-88	乳	MCP系化合物 20%	移 植 本 田	石 原 産 業
	JX-88	粒	X-52〔前 掲〕 5% J-88 1.2%	移 植 本 田	同 上
	BENZOM ARC	粒	urea系化合物 5%	移 植 本 田	S C E T I (国際技術交易)
	OK-701	粒	インダン誘導体 10%	移 植 本 田	大 塚 化 学 薬 品
	OK-702	粒	OK-701〔前 掲〕 6% シメトリン〔前 掲〕 1.5%	移 植 本 田	同 上
	OK-703	粒	OK-701〔前 掲〕 10% MCPB 0.8%	移 植 本 田	同 上
	SKH-11	粒	カーバメイト系化合物 5%	移 植 本 田	シ ェ ル 化 学
	CG-7101	粒	有機燐系化合物 7.5%	移 植 本 田	日 本 ナバガイギー
	CG-7102	粒	有機燐系化合物 7.5%	移 植 本 田	同 上
	CG-7103	粒	トリアジン系化合物 1.5%	移 植 本 田	同 上
	CG-101	粒	CG-7101 6% CG-7103 1.5%	移 植 本 田	同 上
	CG-102	粒	CG-7102 6% CG-7103 1.5%	移 植 本 田	同 上
	G-315	乳	5-ターシャリフチル-3-(2,4-ジクロロ- 5-イソプロピルオキシフェニル) 1,3,4-オ キサジアゾール-2-オン 12%	稚 苗 移 植 水 苗 代 湛 水 直 播	日 産 化 学 工 業
	ブタクロール・S	粒	ブタクロール〔前 掲〕 4% シメトリン〔前 掲〕 1.3%	稚 苗 移 植	ブタエース普及会 〔三菱モンサイト ・三共・日農〕
	DCPA (改 良)	乳	3,4-ジクロロプロピオンアニリド 20%	苗 代 乾 田 直 播	武 田 薬 品 工 業

区 分	薬 剤 名	剤型	成 分 名 お よ び 含 有 率	対 象	委 託 会 社 名
①水 稲 除草剤 (つぎ)	アミプロホス (NTN- 5006)	乳	0-エチル-0-(2-ニトロ-4-メチルフェ ニル)N-イソプロピルチオノフォスホロアミ デート 50%	乾 田 直 播	日 本 特 殊 農 薬
	B-3015・ プロメトリン	乳	ベンチカール: S-(4-クロルベンジル)N, N-ジェチルチオールカーバマイト 50% プロメトリン: 2-メチルチオ-4,6-ビスイソ プロピルアミノ-S-トリアジン 5%	乾 田 直 播	クミアイ化 学 日 本 化 薬
	SAP+X52 (乳) (水和)		SAP: 0,0-ジイソプロピル-2-(ベンゼン スルホンアミド)エチレジチオホスフェート 50% X-52: 前掲 40%	乾 田 直 播	日 本 農 薬
	DPA・ DCMU	水和	DPA: 2,2'-ジクロロプロピオン酸ナトリウム 56.3% DCMU: 3-(3,4-ジクロルフェニル)-1, 1-ジメチル尿素 18.8%	畦 畔	石 原 産 業
	DPA・ DCMU	水和	DPA〔前 掲〕 56.3% DCMU〔前 掲〕 18.8%	休 耕 田	同 上
	DPA・MCP DCMU	水和	DPA〔前 掲〕 45% MCP 15% DCMU〔前 掲〕 15%	休 耕 田	同 上
②水 稲 ・ 生 育 調節剤	FC-907	液	未公開 10%	水 稲	藤 沢 薬 品 工 業
	MIT-461	水溶	未公開	水 稲	石 原 産 業
	トミノール	乳	芳香族有機化合物 90%	水稻(稚苗)	日 本 農 薬
	ヒドロキシイ ソキサゾール	液	3-ヒドロキシ-5-メチル-イソキサゾール 30%	水稻(箱育苗)	三 共
	同 上	粉	同 上 4%	同 上	同 上
	カルバー	粒	カルシウムパーオキサイド(CaO ₂) 27% 以 上	水 稲	カルバー研究会 〔保土谷化学 日 本 化 薬 日本パーオキサイド〕
	RH-531	水溶	未公開	水 稲 (稚苗・成苗)	三 洋 貿 易
	ベタホルモ	粉	α-ナフタリン酢酸ナトリウム 0.02%	水 稲	山 本 農 薬
	粒状水中MCP	粒	エチルMCP 1.2%	水 稲	石 原 産 業
	A M	粒	アリルMCP 1.2%	水 稲	同 上
③畑 作 除草剤	H-51-L	乳	MCP 40% フエリノールブチルエステル 10%	畑 作 一 般	協 和 発 酵 工 業
	R-7465	水和	新規化合物 50%	畑 作 一 般 甘藷,馬鈴薯 てんさい,小 豆,菜豆,さ とうきび	ト ー メ ン ス タ ウ ハ ー

区 分	薬 剤 名	剤型	成 分 名 お よ び 含 有 率	対 象	委 託 会 社 名
③畑 作 除草剤 (つぎ)	H W - 2 4	乳	ジフェニルエーテル系 25%	畑 作 一 般 豆類	保 土 谷 化 学
	NH-6967	乳	フェノビレート：2,4-ジクロロフェニルピリジ ニルカーボキシレート 20%	畑 作 一 般	日 本 農 薬
	N C - 2 4	乳	新規化合物	畑 作 一 般	日 本 カ ー バ イ ド
	NK-15266	乳	新規化合物 20%	陸 稲 とうもろこし 落花生,大豆	日 本 化 薬
	NK-14636	水和	新規化合物 50%	陸 稲 とうもろこし 落花生,大豆	同 上
	NTN-7170	水和	新規化合物 70%	とうもろこし 馬鈴薯,豆類	日 本 特 殊 農 薬
	B-3015・A	乳	ベンチオカーブ：S-(4-クロロベンジル)N, N-ジエチルチオールカーバメイト 40% B-6098(新規) 20%	とうもろこし 豆類	ク ミ ア イ 化 学
	B-3015・ リニュロン	乳	ベンチオカーブ〔前 掲〕 50% リニュロン：3-(3,4-ジクロロフェニル)1 -メトキシ-1-メチル尿素 5%	とうもろこし 豆類	同 上
	VCS・438	水和	2-(3,4ジクロロフェニル)-4-メチル-1, 2,4,オキサジアゾリジン-3,5-ジオン 75%	とうもろこし 馬鈴薯	日 本 曹 達
	WL- 19805	水和	トリアジン系 50%	とうもろこし 馬鈴薯,落花生, 菜豆	シ ェ ル 化 学
	E P T C	粒	エチル-ジノルマルプロピルチオカーバメイト 5%	とうもろこし	北 海 三 共
	SLD-695	水和	C I - I P C : イソプロピルN-(3-クロロフ ェニル)カーバメート 17.5% リニュロン〔前 掲〕 7.5%	とうもろこし 馬鈴薯	石 原 産 業
	KH-166	微粒	2,4-ジニトロ-6-ターシャリブチルフェニル メタンスルホネート 7%	とうもろこし	兼 商
	C N P	乳	2,4,6-トリクロロフェニル-4'-ニトロフェ ニルエーテル 20%	とうもろこし	三 井 東 圧 化 学
	MB-206	粒	尿素系	甘藷,落花生	丸 和 物 産
	M C C	水和	メチル-N-(3,4-ジクロロフェニル)カーバ メート 40%	馬 鈴 薯	ス エ ッ プ 普 及 会 日 産 化 学 北 興 化 学 日 本 農 薬
	I P C ・ M C P	水和	C I - I P C 〔前 掲〕 MCP：2-メチル4-クロロフェノキシ酢酸 (Na) 16%	馬 鈴 薯	石 原 産 業
	M C P ・ デンコーン	水溶	MCP水溶 70% デンコーン水溶 88%	馬 鈴 薯	同 上

区 分	薬 剤 名	剤型	成 分 名 お よ び 含 有 率	対 象	委 託 会 社 名
③畑 作 除草剤 (つづき)	アミプロホス (NTN- 5006)	乳	0-エチル 0-(2-ニトロ-4-メチルフェ ニル) N-イソプロピルチオノフォスホロアミ デート 50%	てんさい, 落 花生, 豆類	日 本 特 殊 農 薬
	I P C ・ アラクロール	乳	C1-IPC〔前 掲〕 45.8% アラクロール: 2-クロール-2', 6'-ジエチル- N-(メトキシメチル)アセトアニリド 43%	てんさい, 小 豆, 菜豆	ラ ッ ソ ー 普 及 会 (三菱モンサント)
	ア シ ュ ラ ム	液	メチル-4-アミノベンゼンスルホニルカーバメ イト(Na) 37%	て ん さ い	塩 野 義 製 薬
	B-3356	乳	カーバメイト系 50%	落 花 生	ク ミ ア イ 化 学
	ブリナクロール (H-2901)	乳	クロル酢酸-N-ブチン-1-イル-3-アリニ ド 50%	落 花 生	北 興 化 学 工 業 武 田 薬 品 工 業
	C-6989	乳	2,4'-ジニトロ-4-トリフルオロメチルジフェ ニルエーテル 30%	落花生, 大豆 菜豆	日 本 チ バ ガ イ ギ ー
	MK-616	水和	未公開 50%	豆類, 大豆,	三 菱 化 成 工 業
	B-3356	乳	カーバメイト系 50%	大 豆	ク ミ ア イ 化 学
	G-315	水和	G-315〔前 掲〕 50%	小 豆	日 産 化 学 工 業
④畑 作 生 育 調節剤	バーナレート	粒	n-プロピル-N, N-ジプロピルチオカーバメ ート 5%	さとうきび	バーナム普及会 (トーマン)
	M I T-461	水溶	未公開	とうもろこし	石 原 産 業
	ダイソレート	水和	塩素酸ナトリウム 48.5%	馬 鈴 薯	北 海 三 共
	M B - 9	液	55%	て ん さ い	日 本 曹 達
	MOLY-CO -FIX	粉	鉄(EDTA) モリブデン コバルト	大 豆	丸 和 化 学
	N B - 8		未公開 24%	小 豆	日 本 曹 達
	M I T-461	水溶	未公開	さとうきび ソルガム	石 原 産 業
	MOLY- CO-FIX	粉	鉄(EDTA) モリブデン コバルト	アルファルファ	丸 和 化 学
⑤そさい 除草剤	R-7465	水和	新規化合物 50%	そさい一 般	ト ー メ ン
	NH-6967	液	0-(2,4-ジクロロフェニル)-N-ピリミ ニウムカルボキシレート 20%	そさい一 般	日 本 農 薬
	I P C ・ アラクロール	乳	C1-IPC: イソプロピルN-(3-クロルフェニ ル)カーバメート 22.9% アラクロール: 2-クロール-2', 6'-ジエチル- N-(メトキシメチル)アセトアニリド 21%	かんらん, ぼ うれんそう	ラ ッ ソ ー 普 及 会 (三菱モンサント)
	ベ タ ナ ール	乳	3-メトキシカルボニルアミノフェニル-N- (3'-メチルフェニル)カーバメート	ぼうれんそう	北 海 三 共

区 分	薬 剤 名	剤型	成 分 名 お よ び 含 有 率	対 象	委 託 会 社 名
⑤そさい 除草剤 (つぎ)	メゾラニール	水和	2-アジド-4-イソプロピル-6-メチルメル カプト-S-トリアジン 50%	ほうれんそう	日本チバガイギー
	トレファノサイド	乳	α, α, α -トリフルオール-2,6-ジニトロ-N, N-ジプロピル-パラートルイジン 44.5%	ねぎ, ごぼう	塩 野 義 製 薬
	KH-166	微粒	2,4-ジニトロ-6-ターシャリブチルフェニル メタンスルホネート 7%	たまねぎ, と うもろこし, だいこん	兼 商
	SK-51B	粒	N-プロピル-ジ-n-プロピルチオカーバメー ト 0.7% ジクロル-ジイソプロピルエーテル 30%	と ま と	ト ー メ ン
	NH-707	乳	未公開	と ま と	日 本 農 薬
	DIPHAM -21		N, N-ジメチル-2,2-ジフェニルアセトアミ ド3-アミノ 2,5-ジクロロベンゾイックア シッド	と ま と い ち ご	石 原 産 業
	DC-55	乳	4-テリアリ-ブチル-2,6-ジメチル-3,5 ジニトロ アセトフェノン 20%	ピーマン ご ぼう パ セ リ	DC-55研究会 (大日本インキ)
	NTN- 5006	乳	0-エチル, 0-(2-ニトロ, 4-メチルフェ ニル)N-イソプロピル チオノフオスフオロ アミデート 50%	きゅうり す い か	日本特殊農薬
	アージラン	液	メチル4-アミノベンゼンスルホニルカーバメ イトナトリウム塩 37%	す い か	塩 野 義 製 薬
	アラクロール (c p- 50144)	乳	2-クロル-2', 6'-ジエチル-N-(メトキシ メチル)アセトアニリド 43%	い ち ご	ラッソー普及会
	NTN- 7170	水和	4-アミノ-6-t-ブチル-3(メチルチオ) SS-トリアジン-5(4H)-オン 70%	にんじん	日本特殊農薬
	SLD-695	水和	CI-IPC[前掲] リニュロン 17.5% 7.5%	にんじん	石 原 産 業
⑥そさい 生育 調節剤	RH-531	水溶	未公開	きゅうり	三 洋 貿 易
	FC-907	液	未公開 10%	きゅうり	蒔沢薬品(箕形)
⑦花き 生育 調節剤	T-455	粉	未公開	花木・花き	日産化学工業
	ジベレリン	結晶	ジベレリン 108.0%	ユ リ (テッポウユリ)	協和醸酵工業
	G-61	乳	脂肪酸エステル類 45%	キク, ユリ (テッポウユリ)	同 上
	B.F.H. 333B	液	未公開	カーネーショ ン, パラ, キ ク	三菱化成工業

区 分	薬 剤 名	剤型	成 分 お よ び 成 分 含 有 率	対 象	委 託 会 社 名
⑧果 樹 除草剤	DPA・DCMU ・MCP	水和	DPA：2,2-ジクロロプロピオン酸ナトリウム 4.5 % DCMU：3-(3,4-ジクロロフェニル)-1,1-ジメチルウレア 1.5 % MCP 1.5 %	み か ん り ん ご な し ぶ ど う	石 原 産 業
	K C - 2	乳剤	未公開	み か ん	ク ミ ア イ 化 学
	D C B N	粒	2,6-ジクロロチオベンズアミド 3 %	み か ん り ん ご	兼 商
	D C P A	乳	3,4-ジクロロプロピオンアニリド 2.0 %	み か ん	武 田 薬 品 工 業
	DCPA・NAC ・DCMU	水和	DCPA：3,4-ジクロロプロピオンアニリド 4.5 % NAC：1-ナフチル-N-メチルカーバメート 9 % DCMU：3-(3,4-ジクロロフェニル)-1,1-ジメチル尿素 7 %	み か ん	保 土 谷 化 学 工 業
	A-3589	水和	アメトリン：2-メチルメオ-4-エチルアミノ-6-イソプロピルアミノ-S-トリアジン 2.5 % GS-14254：2-メトキシ-4-エチルアミノ-6-sec-ブチルアミノ-S-トリアジン 2.5 %	み か ん り ん ご	日 本 チ バ ガ イ キ ー
	K-360	乳	有機燐系化合物 5.0 %	みかん(温州)	日 産 化 学 工 業
	F-82	液	2,2,3,3-テトラフルオールプロピオン酸ナトリウム 3.0 %	か き	住 友 化 学 工 業 ダ イ キ ン 工 業
	F-82	粒	同 上 1.0 %	も も	同 上
⑨果 樹 生育 調節剤	T-455	乳	未公開 2.0 %	みかん(温州)	日 産 化 学 工 業
	ラビートル	水和	N-ジメチルドデシルアミンアセテート 3.0 %	み か ん	日 本 曹 達
	メジタノンR	水溶	アルキルアリルポリエトキシエタノール 12.2 %	み か ん	東 陽 通 商
	EE-K	粉	未公開	み か ん	田 辺 製 薬
	SV-43	水溶	未公開 5.0 %	みかん(温州) はっさく	三 共
	KH-087	水和	未公開 1.0 %	みかん(夏柑)	同 上
	F-2	水溶	未公開 5.0 %	り ん ご	日 本 互 斯 化 学
	B-ナイン	水溶	N-ジメチルサクシナミックアシッド 8.0 %	りんご(幼木)	日 本 曹 達
⑩茶 園 除草剤	MB-206	粒	尿素系化合物 1.5 %	茶	丸 和 物 産
	F-82	粒	2,2,3,3-テトラフルオールプロピオン酸ナトリウム 1.0 %	茶	住 友 化 学 工 業 ダ イ キ ン 工 業
	トレファノサイド	粒	α, α, α -トリフルオール-2,6-ジニトロ-N,N-ジプロピル-パラ-トルイジン 2.5 %	茶	塩 野 義 製 薬
⑪桑 園 除草剤	DPA・DCMU	水和	DPA：2,2-ジクロロプロピオン酸ナトリウム 5.6.3 % DCMU：3-(3,4-ジクロロフェニル)-1,1-ジメチルウレア 1.8.8 %	桑	石 原 産 業
	MB-206	粒	未公開 1.5 %	桑	丸 和 物 産

区 分	薬 剤 名	剤型	成 分 名 お よ び 含 有 率	対 象	委 託 会 社 名
⑪桑 園 除草剤	R-7465	水和	2-(α ナフトキシ)-N,N-ジエチルプロピ オンアニリド 50%	桑	ト ー メ ン
⑫林 地 除草剤	ア シ ュ ラ ム	液	メチル4-アミノベンゼンスルフォニルカーバマ ート 37%	林 業 苗 圃	塩 野 義 製 薬
	NTN-5006	乳	0-メチル0-(2-ニトロ4メチルフェニル) N-イソプロピルチオノホスホロアミデート 50%	杉	日 本 特 殊 農 薬
⑬牧野草 地関係 除草剤	B P A	液	2-メチル-4-クロロフェノキシ酢酸ナトリウ ム 8.3% 2-メチル-4-クロロフェノキシ酢酸カリウム 1.8% 2,3,6-トリクロロ安息香酸ナトリウム 4.9%	牧 草	武 田 薬 品 工 業

第 1 表 部門別除草剤、生育調節剤受託点数一覧表

植 調 協 会 だ よ り

◎ 第 21 回役員会要旨

昭和 46 年 5 月 28 日、東洋
信託銀行虎の門支店会議室にお
いて開催し、次の議題に基き審
議の上、可決された。

議 題

1. 役 員 人 事
2. 昭和 45 年度事業報告
3. 昭和 45 年度収支決算報告
4. 昭和 45 年度剰余金処分案
5. 昭和 46 年度事業計画案
6. 昭和 46 年度予算案
7. その他（諸規定の改正、評
議員会費の算定基準、受託試
験費の徴収方法）

次にその概要をのべる。

1. 役員人事について

- (1) 故・代谷治郎理事（石原
業樹）の後任として、野中

区 分	委 託 点 数				
	作-ABC	適-A	適-B	適-C	計
A 昭和 44 年度冬作関係					
Ⅰ) 除 草 剤	18	260	0	0	278
麦 作	7	22	0	0	29
イ グ サ	0	17	0	0	17
水 稻 刈 取 後	11	59	0	0	70
芝	0	8	0	0	8
そ さ い	0	162	0	0	162
Ⅱ) 生育調節剤	0	17	0	0	17
麦 作	0	0	0	0	0
そ さ い	0	17	0	0	17
小 計	18	277	0	0	295
B 昭和 45 年度夏作関係					
Ⅰ) 除 草 剤	180	1,768	63	12	2,023
水 稻	109	1,038	39	12	1,198
畑 作 関 係	71	231	24	0	326
そ さ い 関 係	0	221	0	0	221
果 樹 園 関 係	0	175	0	0	175
桑 園 関 係	0	37	0	0	37
茶 園 関 係	0	10	0	0	10
林 地 苗 圃	0	8	0	0	8
牧 野 草 地	0	30	0	0	30
芝 生	0	18	0	0	18
Ⅱ) 生育調節剤（材）	27	307	0	0	334
水 稻	18	16	0	0	34
畑 作	9	8	0	0	17
そ さ い	0	36	0	0	36
果 樹	0	206	0	0	206
茶 園	0	5	0	0	5
桑 園	0	6	0	0	6
マ ル チ	0	30	0	0	30
小 計	207	2,075	63	12	2,357
合 計	225	2,352	63	12	2,652

第 2 表 昭和 4 4 年度冬作関係試験結果の総括表

区 分	供試薬剤数	判 定				
		実	実～継	継	継 ?	中 止
(1) 除 草 剤						
麦	8	0	1	6	1	0
イ グ サ	5	0	1	4	0	0
水 稻 刈 跡	3 0	2	7	2 0	0	1
そ さ い	4 3	6	5	3 0	2	0
芝	4	1	0	3	0	0
(2) 生育調節剤						
そ さ い	5	0	1	1	3	0

第 3 表 昭和 4 5 年度夏作関係試験結果の総括表

区 分	供試薬剤数	判 定				
		実	実～継	継	継 ?	中 止
(1) 除草剤						
移 植 水 稻	1 4 0	2 2	3 5	7 3	9	1
稚 苗 移 植	3 2	8	8	1 2	3	1
苗 代	1 2	3	2	7	0	0
湛 水 直 播	1 0	0	3	7	0	0
乾 田 "	1 4	1	3	8	1	0
休 耕 田	1 1	4	0	7	0	0
陸 稻	1 0	5	1	1	2	1
麦	2	0	0	2	0	0
とうもろこし	8	3	1	4	0	0
甘 し ょ	7	2	0	2	0	3
馬 鈴 薯	8	6	1	1	0	0
大 豆	8	2	2	3	1	0
小 豆	5	1	0	3	0	1
菜 豆	8	2	1	5	0	0
落 花 生	1 1	2	1	5	1	2
て ん さ い	6	2	2	2	0	0
こんにやく	1	1	0	0	0	0
そ の 他	1 3	0	0	1 3	0	0
春夏作そさい花	6 1	1 6	1 0	2 7	7	1
茶 園	3	0	1	2	0	0
桑 園	7	4	3	0	0	0
牧 野 草 地	1 2	0	2	8	2	0
林 地	7	4	0	3	0	0
ミ カ ン	2 1	2	1 0	3	2	4
リ ン ゴ	8	1	3	2	1	1
落 葉 果 樹	7	1	3	1	1	1
芝	4	0	2	2	0	0
(2) 生育調節剤						
水 稻	9	2	0	7	0	0
畑 作	4	0	0	4	0	0
春夏そさい花	1 3	0	4	6	2	1
茶 園	2	0	0	2	0	0
桑 園	2	1	1	0	0	0
ミ カ ン	1 3	8	0	4	1	0
リ ン ゴ	1 2	3	2	6	1	0
落 葉 果 樹	5	1	2	2	0	0
(3) マルチ						
稲	5	1	1	3	0	0
大 豆	2	1	0	1	0	0
とうもろこし	2	1	0	1	0	0
甘 し ょ	2	1	0	1	0	0
落 花 生	2	1	0	1	0	0
そ の 他	4	0	2	1	1	0

光太郎氏（石原産業営業才 2 部次長）が理事に就任した。

(2) 平岡治夫理事（日本化薬㈱）が退任し、上田勇五氏（日本化薬㈱農薬部長）が理事に就任した。

2. 昭和 4 5 年度事業報告について

(1) 受託試験関係

昭和 4 3 年度より農林水産特別研究費補助金の交付を受け、殺種子剤として有望視される。

N-25, N-413, N-009 の 3 薬剤を供試し、その利用法の確立についての研究を滋賀農試、福岡農試、植調研究所が夫々分担して試験を実施した。

(2) 委託試験関係

① 国内関係

昭和 4 4 年度冬作、昭和 4 5 年度夏作関係委託試験の部門別受託点数は第 1 表に掲げた通りで、計 2,652 点であった。

その試験結果の概要は、第 2 表、第 3 表に掲げた通りである。

なお、昭和 4 5 年度夏作関係委託展示圃の供試点数は、水稻関係 938 点、畑作関係 57 点、そさい・花き関係 13 点、果樹・桑関係 24 点、計 1,032 点であった。

② 国外関係

次の薬剤について沖縄に試験を委託した。

薬 剤 名	対 象 作 物
ア メ ト リ ン	さ と う き び パインアップル
サ ッ ソ ー シ ー ト P	さ と う き び
エ ス レ ル	パインアップル

3. 昭和45年度収支決算報告について

(1) 一般会計

収 入	1 7 8,4 3 0,6 8 9
支 出	1 6 8,9 6 6,6 5 2
当期末処 分剰余金	9,4 6 4,0 3 7

(2) 特別会計

雑草殺種子剤の開発利用法

の確立に関する研究費

収 入	6 1 6,0 2 5
支 出	6 1 6,0 2 5
差 引	0

4. 昭和45年度剰余金処分について

当期末処 分剰余金	9,4 6 4,0 3 7 円
次 年 度 繰 越 金	5,0 0 0,0 0 0
研究資質 向上引当金	1,5 4 4,7 6 2
研究所設立 引当金繰入	2,9 1 9,2 7 5

5. 昭和46年度事業計画について

(事務局)

- (1) 植物調節剤の開発利用に関する調査研究
殺種子剤, 土壌混和剤, ワラビ防除用
除草剤, 散布能率の向上に関する研究,
多年性雑草防除用除草剤の利用開発, 作物

乾燥剤の開発・利用法確立に関する調査研究。

(2) 植物調節剤の試験受託・委託

夏作および冬作関係除草剤・生育調節剤の
受託・委託, 展示圃試験の受託・委託, 農
薬残留量分析試験の受託・委託。

(3) 植物調節剤委託試験成績検討会の開催

(4) 植物調節剤に関する試験成績の印刷

(5) 研究成果の行政当局に対する説明会の開催

(6) 植物調節剤に関する研究会・講習会の開催

(研究所)

(1) 植物調節剤の開発利用調査研究

(2) 植物調節剤の試験研究

除草剤第1次選抜試験, 水稻・畑作関係新
除草剤作用特性試験, および適用性判定試
験, 農薬残留分析用試料調整, その他調査
研究。

6. 昭和46年度収支予算について

(1) 収入の部

受託試験費	1 8 8,0 5 7,0 0 0 円
会 費	5,3 0 0,0 0 0
預金 利子	3,5 0 0,0 0 0
雑 収 入	1 6 0,0 0 0
寄 付 金	1 5 0,0 0 0
前期繰越金	5,0 0 0,0 0 0
研究資質向上 引当金戻入	1,5 4 4,7 6 2

計 2 0 3,7 1 1,7 6 2

(2) 支出の部

委託試験費	1 3 5,2 2 2,0 0 0
事務局 費	3 8,0 5 0,0 0 0
研究所 費	1 9,0 0 0,0 0 0

植調支部経費	2,095,000 ^円
植調補填金	1,400,000
研究会諸経費	1,800,000
償却資産修繕費	100,000
予備費	6,044,762
計	203,711,762

7. その他について

(1) 諸規定の改正

事務分掌および職制に関する規程，文書処理規程，経理規程，就業規程，給与規程の一部を改正した。

(2) 評議員会費の算出基準

会費最低額および最高額について値上げし，中間層は据置きとすることにつき，検討することになった。

(3) 受託試験費の徴収方法

経費の算出にあたり試験点数を上回った試験について増額徴収をすることにつき，検討することになった。

昭和46年度落葉果樹関係（ブドウのベンジラデニン）の試験成績検討会

日時 昭和46年7月20日

場所 大阪農協ビル

昭和46年度りんご関係生育調節剤現地検討会

日時 昭和46年8月26日～27日

場所 福島県園芸試験場

昭和46年度落葉果樹関係（ナシのエスレル）の試験成績検討会

日時 昭和46年9月9日～10日

場所 鳥取県果樹試験場

昭和45年度冬作関係（麦・いぐさ・水稻刈跡）除草剤中央検討会

日時 昭和46年8月31日

場所 東京薬業健保会館（東京都千代田区

永田町）

昭和46年度夏作関係除草剤作用特性試験中間検討会

畑作関係 日時 昭和46年8月28日
場所 植調研究所（埼玉県鴻巣市）

水稻作関係 日時 昭和46年8月30日
場所 植調協会会議室
（東京都港区）

◎ 人 事 異 動

6月1日昇格 参事兼庶務部長

主事 杵島晴男（事務局）

◎ 会議開催日程

昭和45年度秋冬作そ菜・花き検討会

日時 昭和46年6月23日～25日

場所 岩手県職員共済会館

昭和46年度土壌混層処理現地研究会

日時 昭和46年6月25日～26日

場所 宮城県農試古川分場

東北農業試験場農業技術部

岩山大飯店

——質疑応答欄の開設——

当誌をご愛読いただき，まことにありがとうございます。

当誌も発刊以来5星霜，除草剤・生育調節剤に関する記事を掲載してまいりましたが，これについて疑問をいだかれている記事があるかと存じます。これにつきまして当誌上にてご解答いたしますので，遠慮なく当誌編集係までご一報下さい。

新除草・調節剤

さし木発根促進用植物成長調節剤

オキシベロン

(取扱メーカー) 塩野義製薬株式会社

対象作物：きく、カーネーション

性状・作用特性：本誌3巻12号を参照

使用方法：次の通りである。

対象作物	適用薬剤	濃 度	処 理 方 法
きく	液剤	500～ 1000 倍	さし穂基部3時間浸漬
		2 倍	さし穂基部10秒浸漬
カーネーション	粉剤	0.5 %	さし穂基部粉衣
	液剤	200～ 400 倍	さし穂基部16～24 時間浸漬
	粉剤	0.5 %	さし穂基部粉衣

使用上の注意：既に本誌3巻12号で記載したが、きく、カーネーションのような軟弱なさし芽に使用する場合には、さし木用土が過湿になるとさし芽の腐敗を招くので特に注意が必要である。また立枯性病害の点を考慮した時、液剤より粉剤の使用が望ましいが、粉衣する場合には過剰に粉衣することを避けねばならない。

古くより「苗半作」との諺があるが、きく、カーネーションのような発根容易な種類についても発根を早め、発根数の多い良苗をうることで、安定した生産を維持する上で必要なことといわねばならない。ポットマムのように初期の生育が花の性質を左右する栽培では、ことに早くよい苗をうることで重要と考えられる。

編 集 後 記

長期天気予報では、今年の梅雨は長いと予報されていたが、どうやらこの予報ははずれたようだ。

6月下旬、北海道を旅したが、公害の波が、北海道の原野にまで押し寄せているのには驚いた。今は無人駅となっている神居古譚駅前を流れている石狩川が、濁流と思われるような茶褐色の流れ、……これは製紙工場の廃液（赤泥）であるという。北海道名産の鮭も、これでは生まれ故郷に戻るにも戻れまい。

昨年問題となった雑草公害… その公害雑草ブタクサ（クワモドキ）が、今年は各地で散見される。地方自治体である市町村では、街並木にそって繁茂するこの雑草に気づかないのだろうか。花粉が飛び、ゼンソクの原因をもたら

すような現象が起こらない限り、行政当局は防除活動に入ってはいけないという規則でもあるのかな？

除草剤に関係している仕事に従事している者には、このような雑草を放置しておく者の心理状態をおそらく理解できないであろう。

財団法人 日本植物調節剤研究協会
東京都港区芝西久保桜川町26番地
東 話 東京(03)502-4188(代)

昭和46年6月発行

第5巻第3号

¥70(送料35)

編集人 日本植物調節剤研究協会常務理事 吉沢 長 人
発行人 植調編集印刷事務所 広田 伸 七

東京都港区芝愛宕町1-3 全国農村教育協会内
発行所 植調編集印刷事務所

電話 東京(03)436-3388番

カンラン・ハクサイ・ホウレン草・ダイコン

BARNYARD GRASS

CRABGRASS

GIANT FOXTAIL

ANNUAL BLUEGRASS

GREEN FOXTAIL

の除草剤

ラッソー[®] 乳剤

特長

- ・一年生イネ科雑草およびカヤツリグサに対してすぐれた効果を示します。
- ・十字科野菜類に対してはとくに安心して使用できます。
- ・温度などの変動による除草効果の低下は認められません。
- ・低毒性ですから安心してご使用になれます。

成分

- ・2-クロル-2',6'-ジエチル-N-(メトキシメチル)アセトアニリド(アラクロール) 43%を含む乳剤

ラッソー普及会

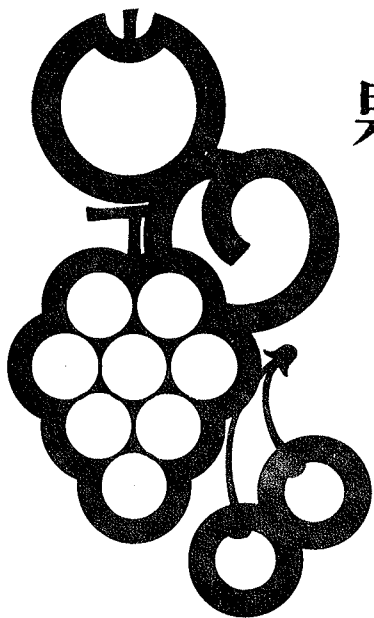
日本農薬 / 日産化学工業 / 三菱モンサント化成

事務局 三菱化成工業

増収を約束する

日曹の農薬

果樹の経済性を高める



B-ナイン
水溶剤

- りんご：着色促進，落果防止，貯蔵性増大に
ぶどう：巨峰ぶどうの花ぶるい防止に
もも：熟期促進に
おうとう：熟期，着色促進に



日本曹達株式会社

本社東京都千代田区大手町2-2-1

支店 大阪市東区北浜 2-90



休耕田の 雑草枯らしに!

武田グラモキソン®

休耕田は雑草の発生量が増加し、休耕後の作付が困難になります。
またウンカ・ヨコバイなどの害虫や、いもち病・しらは枯れ病などの病害発生のもととなります。武田のグラモキソンでかならず休耕田の除草をして下さい。

●グラモキソン散布方法

10a 当り100~150 lの水にグラモキソン300~400CCを希釈して展着剤アルソープを加え加圧噴霧機で雑草にむらなく散布して下さい。



武田薬品工業株式会社 東京都中央区日本橋江戸橋2-7

広範囲の作物に使用できる除草剤

トリフルラリン除草剤

カンラン、ハクサイ、ニンジン、トマト、スイカ、カンショなどの除草に

トリアノサイド®乳剤

乳剤と同等の効果がある畑作用の粒剤

トリアノサイド®粒剤2.5

製造発売 シオノギ製薬 植物薬品部 大阪市東区道修町
支店 東京・福岡・札幌

提携 イーライ リリー社 エランコプロダクト部

®イーライ リリー社登録商標